

## 8. 沿岸重要資源調査

### (4) マアジ資源生態調査

担当：野々村卓美（増殖推進室）

実施期間：平成 18 年度～（平成 25 年度予算額：沿岸漁業重要資源調査 8,883 千円うち、サワラ・マアジ 1,529 千円）※マアジ資源生態調査は、平成 25 年より開始

#### 1) 目的

沿岸漁業の重要対象種の一つであるマアジの漁獲実態に関する知見が乏しいため、調査を行い、基礎的知見を得ること。そして、漁業者への資源管理方策の提言等に資すること。

#### 2) 方法

##### ①漁獲動向

アジ類（マアジ、マルアジ）の漁獲情報システムより、漁獲量・金額、単価などの動向を調査した。

##### ②市場調査

平成 25 年 5 月から平成 26 年 3 月にかけて賀露地方卸売市場に集荷されたマアジ、および鳥取県漁業協同組合御来屋支所で行われている小型定置網で平成 25 年 6 月に漁獲されたマアジの尾叉長、箱数、入り数を記録した。さらに、平成 25 年 5 月より、鳥取県漁業協同組合淀江支所で小型定置網漁業が開始されたため、同年 6 月に同様の調査を実施した。

#### 3) 結果

##### ①漁獲動向

平成 25 年（2013 年）のアジ類（マアジ、マルアジ）の漁獲量・金額は 245.9 トン、130.7 百万円、単価は 531 円/kg であった。いずれも平成 24 年よりやや減少した（図 1）。

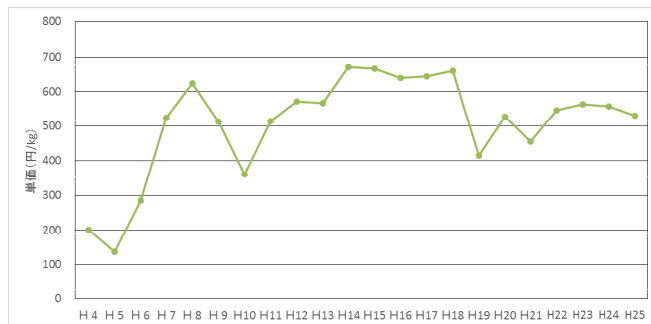
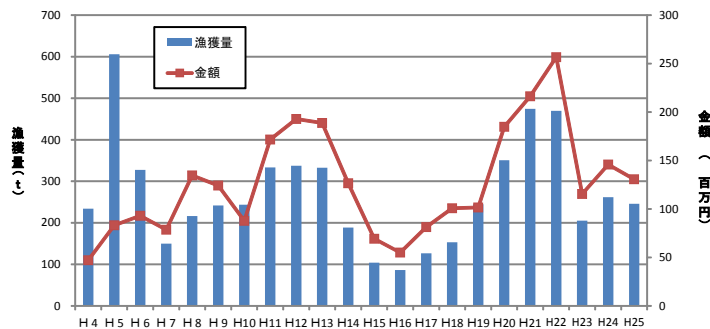


図1 アジ類（マアジ、マルアジ）の漁獲量・金額・単価の推移。

## H25成果 8 沿岸重要資源調査

### 【漁法別漁獲量・金額・単価】

アジ類は、主に一重の固定刺網により漁獲されており、漁獲量では38%、漁獲額では47%を占めていた。次いで、小型定置網、すくい網、一本釣により漁獲されていた（図2）。

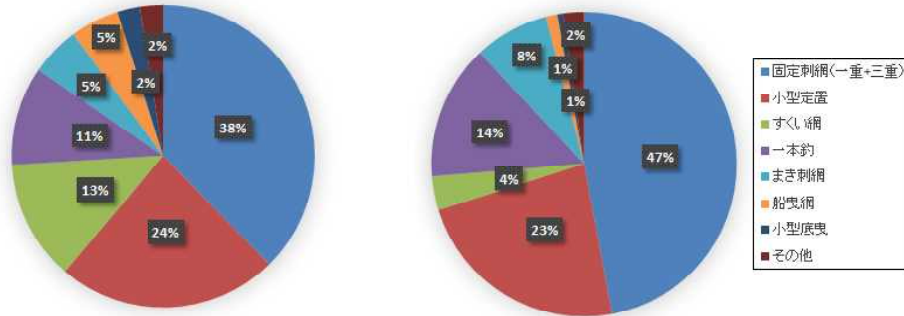


図2 アジ類（マアジ、マルアジ）の漁法別漁獲量（左）と金額（右）。

平成25年度の単価は、まき刺網797円/kg、一本釣718円/kg、固定刺網664円/kgの順に高くなっていた（表1）。

表1 アジ類（マアジ、マルアジ）の漁法別単価。

漁法	単価 (円/kg)
固定刺網(一重+三重)	664
小型定置	521
すくい網	147
一本釣	718
まき刺網	797
船曳網	125
小型底曳	139
その他	468

### 【漁法別漁獲量の月変化】

#### 1 固定刺網（一重網+三重網）

1月～5月の漁獲量と金額は、は10t以上、800万円以上であったが、6月～11月は5t未満、300万円前後で推移していた（図3）。

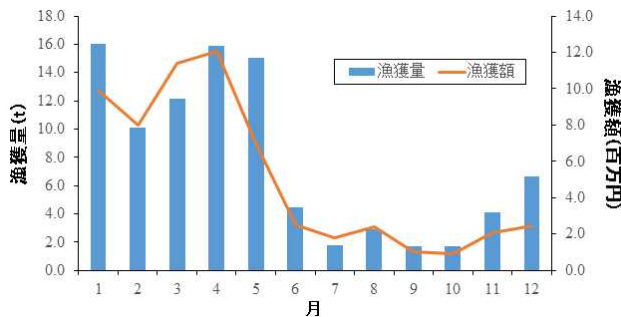


図3 平成25年アジ類（マアジ、マルアジ）の固定刺網（一重網+三重網）の漁獲量と金額の月変化。

#### 2 小型定置網

1月～3月は資源管理のため休漁で漁獲がないが、5月～6月と9月～11月にかけて漁獲の増加があり、8t～14t、400～600万円であった（図4）。

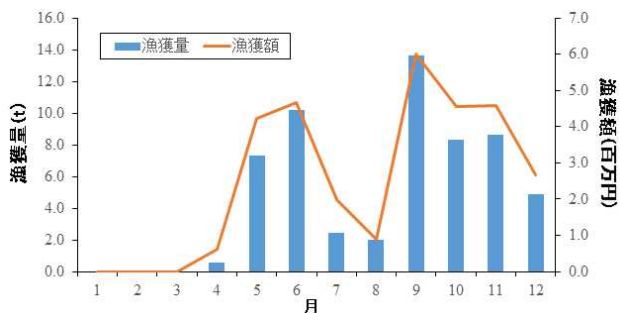


図4 平成25年アジ類（マアジ、マルアジ）の小型定置網の漁獲量と金額の月変化。

## H25成果 8 沿岸重要資源調査

### 3 すくい網

5月～7月と9月～10月に漁獲の増加があり、7月が最も多く、8tと200万円程度であった(図5)。

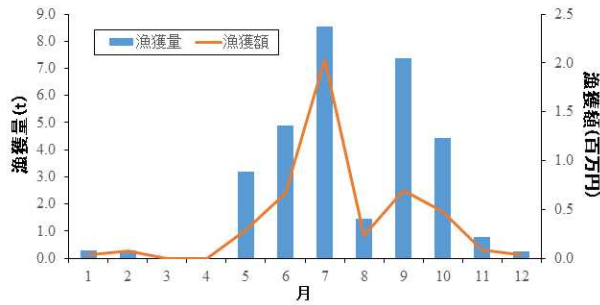


図5 平成25年アジ類(マアジ、マルアジ)のすくい網の漁獲量と金額の月変化。

### 4 一本釣

年間を通じて6月の漁獲量と金額が最も高く、6tと550万円であった。6月以降は徐々に減少する傾向が見られた(図6)。

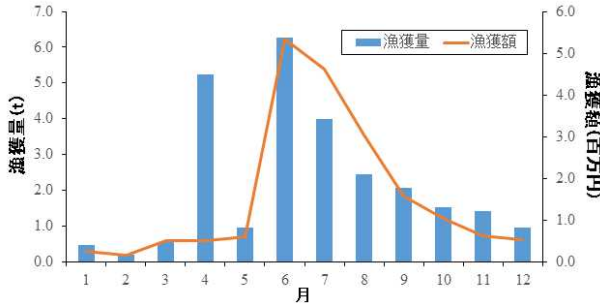


図6 平成25年アジ類(マアジ、マルアジ)の一本釣の漁獲量と金額の月変化。

### ②市場調査

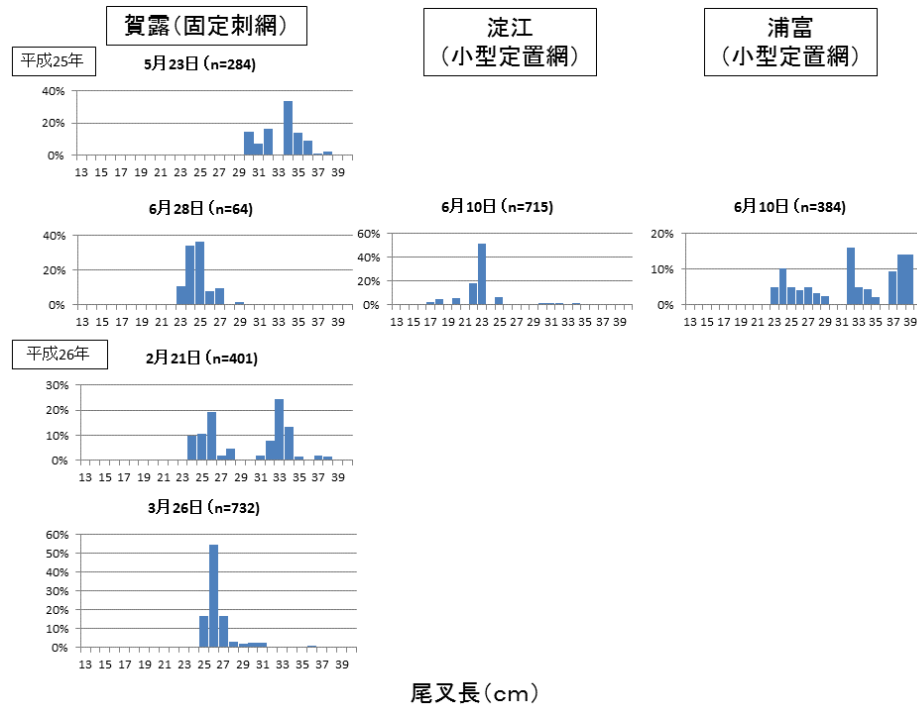


図7 平成25年賀露地方卸売市場、鳥取県漁業協同組合淀江支所、および同漁協御来屋支所におけるマアジの尾叉長組成。

## H25成果 8 沿岸重要資源調査

賀露地方卸売市場で刺網で漁獲されたマアジの組成を見ると、主に 23cm ～ 28cm と 29cm ～ 35cm の 2 つのモードが見られた。小型定置網で漁獲されたマアジを淀江で測定した結果、22cm ～ 25cm に 1 つのモードが見られた。そして、浦富の定置網では 3 つのモード (23cm ～ 29cm, 32cm ～ 35cm, 37cm ～ 39cm) がみられた。このようにマアジは大 (37cm ～ 39cm) ・中 (29cm ～ 35cm) ・小 (23cm ～ 28cm) の 3 つのサイズに分けられた。

### 4) 成果と課題

的確な資源管理方策を提言するためには、市場における測定データを増やすとともに、年齢組成を明らかにする必要がある。